

けない、明日へ

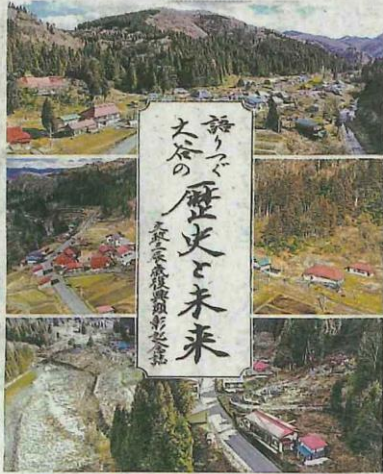
題字は青木こころさん(郡山市・朝日が丘小6年)

三島の文政三辰年復興顕彰実行委

大水害200年で記念誌

三島町大谷地区の住民有志でつくる文政三辰年復興顕彰実行委員会は、一八二〇(文政三)年の大水害から二百年の節目を機に、地区の災害の歴史を伝える記念誌「語りつぐ大谷の歴史と未来」を発行した。災害史を学ぶことで風化を防ぎ、住民の防災意識の高揚を後押しする。

防災意識 高揚後押し



大谷地区の災害の歴史をまとめた記念誌

を写真や資料、年表などを用いてまとめた。地域を守る神仏、年中行事なども紹介している。

実行委員会長で大谷区長の五十嵐政人さん(六七)は「時間の経過とともに災害の風化が進み、二百年前の水害さえあまり受け継がれていない。どうか次世代に伝えなければ」と警鐘を鳴らす。

地区に残る古文書によると、旧大谷村では中世末から近世にかけての三百年間に約四十回の大洪水が発生し、水害にまつわる伝説も多くあるという。その被害や対策など4へ。

実行委は、復興記念碑の建立や記念植樹などの事業にも取り組む計画。記念誌に関する問い合わせは五十嵐さん 電話090(7796)5724へ。